



修士論文審査会—修士2年間の成果を12分に込めて

The final defense of master's thesis

平成21年度の修士論文審査会が2月9、10日に行われ、研究室のM2七名(菊地原、竹本、土信田、中島、西川、藤井、六田)が発表に臨み、無事論文審査を通過しました。また発表後にはお疲れ会も行われ、大いに盛り上がりました。そこで、M2を代表して西川さんに「修士論文を振り返って」と題してコメントをいただきました!

The final defense of master's thesis was held on 9,10th February, and 7 students (Kikuchibara, Takemoto, Doshida, Nakashima, Nishikawa, Fujii, and Rokuta) gave a short presentation of his or her research, and there was the party after the defense. Among them, Mr.Nishikawa gave us the impression of writing thesis.

先日、7名の修士論文の最終発表が無事終わりました。発表は12分という短い時間の中で、全てを伝えきことは難しかったのですが、論文は自分の問題意識に全力で取り組み、充実感でいっぱいです。

自分の論文は言語との闘いでしたが、新たな知見に出会う喜びと楽しみが論文のモチベーションとなりました。また、毎回の研究室会議で先生方との(相談ではなく)議論が楽しみでした。今年のM2は多様なテーマで、皆の研究を聞くのも楽しみでした。論文はあくまで手段であって通過点。修士論文が日本の学術研究としての蓄積はもちろん、少しでも個々の都市に貢献できるものでありたいと思うと同時に、論文で得た経験を仕事等で活かしていきたいと思えます。

M2 西川 亮



▲発表を行う我が編集長、菊地原



▲修論お疲れ会の様子

菊地原徹郎

「福島県田村市船引町における葉たばこ産業依存の特色と変容—基幹産業の縮退が地域にもたらす影響に関する研究—」

竹本千里

「戦後の隅田川におけるまちづくり活動の展開—都市を代表する河川に対する認識の変遷に関する研究—」

土信田浩之

「町屋建築における住まい方と街路との関係性に関する研究—岐阜県高山市を対象として—」

中島和也

「引揚者マーケットの成立と展開に関する研究—盛岡と岡山の事例を中心として—」

西川亮

「欧州評議会による『文化の道』の理念と実態—文化遺産の広域連携への着目—」

藤井高広

「都市部における工事現場の仮囲いの変遷と影響に関する研究」

六田康裕

「住環境の保全を目的とした景観地区の指定経緯とその運用実態に関する研究」

卒業設計審査会—4名それぞれの“こだわり抜いた”作品

The final defence of diploma design

本研究室所属のB4四名が、2月15日に行われた卒業設計審査会においてそれぞれの作品を発表しました。そこでB4を代表して宮本君に、卒業設計を振り返ってもらいました!



▲安川による発表の様子

毛井意子

「ピオトボス～都市が都市らしくあるために～」

前川綾音

「百軒店職人窟」

宮本真栄

「散学連繫～みちの学校、学校のまち～」

安川千歌子

「ひと+まち → 再生」
オクガイ

卒業設計では、過疎の重伝建地区(奈良・大宇陀)を対象に、地域の衰退と通学路の消失という問題を解決する分散型小学校を提案しました。守りながら作るという趣旨なので、保存するものと新しいものの境界に齟齬が生じがちで、その調和に苦労しました。また、右肩下りの地区で開発をする事の正当性を示すのに苦労しました。

そして発表当日。台本のないジュリーは収束せず、先生方の厳しい質問にたじろぎ、眠気と疲れで満足のいく質疑ではありませんでしたが、全員自分の言葉で答えていたように思います。

ご指導頂いた先生方、助言を頂いた先輩方、助けてくれた友人達には感謝の気持ちで一杯です。

卒業設計は卒業のためにやるのではなく、それぞれが自分なりのこだわりを持って取り組んでいたと思います。この設計が終わりの設計ではなく、始まりの設計となるように今後の人生の第一歩としていきたいと思えます。本当にありがとうございました。

B4 宮本 真栄

都市デザインスタジオ地元発表会@柏 終わりになき挑戦

The symposium of the Urban Design Studio for local people at UDCK

1月30日にUDCKにおいて、都市デザインスタジオの地元発表会が行われました。4ヶ月にわたるスタジオの集大成として、各班プレゼンテーションを行い、先生方、住民の方々と議論を交わしました。私たちの班では、モバイルの施設とそれが発着するプラットフォームを設計し、それによって街中に様々なシーンを作っていくという提案をしました。この案に賛同してくれる住民もあり、今後自治会との間で議論をして、実現可能性を探って行こうと考えています。スタジオは終わりましたが、継続して案を発展させ、いろいろな試みを行っていききたいと思います。

text_suzuki



▲地元発表会の様子



▲鈴木らの提案イメージ

“The spirit of Kawagoe”

留学生のエッセイ No.06
D1 Xu Tong, China

「留学生から見た日本の都市」というテーマで連載しているこのコーナー。第6回目は、昨秋中国から来日した博士課程1年の徐桐さんです。



▲Festival in Kawagoe
(出典)小江戸川越観光協会ホームページ



▲People in Qikou

The cities and towns in Japan by which I am deeply moved are such that are really possessed by the community living in it. Kawagoe is a city of this kind. It seems like a historic cup in which full of the memory of the community is contained. Besides the historic temples, shrines and houses, which can be taken as the cup, such memories of local community as Higawa shrine's autumn festival on October on 14th-15th, Kitain's Ganzan Great Master memorial festival on January 3rd, and traditional artistry of manage life, this spirit of Kawagoe also remains alive.

When Kawagoe confronts with some developing decisions, community living in it is trying their best to keep the city going in the right way as it should be. And among such decisions, the community will keep a most important point in their mind that is to make sure their traditional memory of the

city safe.

Similar as Japan, there are also many towns in China that are full of the memory of the community. Take the historic town names Qikou as an example, you can be deeply touched not only by the beauty of the nature it located, buildings and temple, but also the efforts the community giving out to keep their memory sustained in this town.

Very sadly, when the cities or towns come up with some converting challenges from outside, the voice from the community usually could not be big enough to catch the attention of the decision-maker. But, also fortunately, in China there are more and more experts involved become realized that cities as well as towns should be given back to the community. And instead of being as substitute, outsiders should help them to make a better decision on the future of their hometown.

研究室OB酒井さんの本が絶賛発売中! Mr.Sakai's book is published now!

研究室OBの酒井憲一氏が執筆した「都市美協会運動と椽内吉胤」(2009年1月出版)が好評発売中です。酒井氏に、都市デザイン研と著書の関わりについて振り返って頂きました。

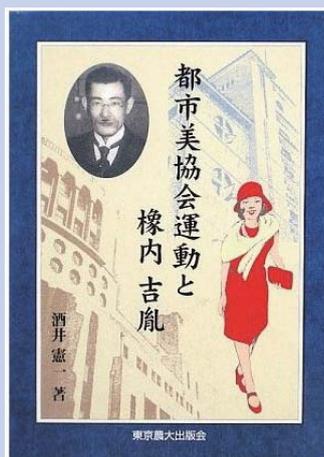
『研究室のレプリカント光線』

研究室OB 酒井 憲一

この本は、研究室が放つレプリカント光線によって世に出たといえましょう。四半世紀前に都市工出の知人から贈られた学位論文で都市美協会を知って、研究を始めました。資料難という厚い雲に囲まれて立ち往生していたとき、都市デザイン研究室で指導を受けた中島直人教官が、西村教授の示唆で都市美に関心をもって以来その道の専門家だったという僥倖に恵まれ、執念の集大成をわが国初の刊行として問うことができました。

研究室会議で中間発表したときの感動、次いで、日本建築学会2005年大会に大挙遠征した研究室メンバーの一員として、「都市保全計画と椽内吉胤および都市美協会との文脈」を発表した際の記事が、『都市デザイン研マガジン』11号、2006年5月「椽内吉胤に学ぶ」の中島助教とのコラボ講演(東京農大)記事が27号に、ともに写真つきで載ったときの感激が忘れられません。

雲の切れ間からのレプリカント光線という光芒は、虹も同時に現れることがあります。都市美と研究室にかかる虹なのです。



都市デザイン研マガジンでは、研究室関連の方が出版した書籍を紹介しています。掲載希望の方はmagazine@ud.t.u-tokyo.ac.jpまで。

都市デザイン研究室 情報欄

おし
らせ アーバンデザイナー
北沢猛氏の軌跡

北沢先生を偲び、業績を思う会を行います。

日時:2010年3月14日(日) 13:30-16:55

場所:東京大学本郷キャンパス・工学部11号館1階講堂
主催:北沢先生の業績を思う会実行委員会

■当日のプログラムは
<http://ud.t.u-tokyo.ac.jp/page/jap/chirashi/100314.pdf>
をご確認ください。

■3月23日にUDCK柏の葉アーバンデザインセンター主催の北沢先生を偲ぶ会も開催されます。

3月の予定

3月14日 北沢先生を偲び、業績を思う会@本郷
3月17日 足助PJまちづくり報告会@足助
3月23日 北沢先生を偲ぶ会@UDCK
3月24日 東京大学大学院学位記授与式

編集後記

text_yamashita

寒さも弱まり、すっかり春めてきました。春といえば出会い、そして別れの季節。今までお世話になったM2の方々に感謝しつつ、来年度入学してくる後輩をいかにPJに引き込むかを考えている今日この頃です。